



1. 校長挨拶

4月8日に始業いたしました2026年度も、既に三ヶ月余りを経て夏期休業を迎えることとなりました。この間、入学式、体育祭、研修旅行、緑舎祭、校外活動、など多くの学校行事を無事に終えることができました。あらためまして、この間、保護者の皆様方から賜りました御支援と御協力に対し、深謝申し上げる次第です。

校外行事では、私も7月3日にはウィンブルドン観戦に参加させていただきました。炎天下、長時間の待機は大変でしたが、世界を舞台に活躍する日本人選手達を生徒の皆さんと共に応援することができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

また、昨日の緑舎祭では「原宿」をテーマに、実行委員長の馬場さんを中心に、各ハウスが工夫を凝らした企画を実施してくれましたが、地域の方々に帝京ロンドン学園の魅力を知っていただく、絶好の機会となったのではないかと思います。御来校いただきました保護者の皆様方におかれましては、足をお運びいただき誠にありがとうございました。

学園は本日より9月1日まで長期の休みに入ります。各学年の生徒のみなさんが高校生活の残り時間を考え、将来の夢実現につながる有意義な時間が過ごせますように、各御家庭でも御指導いただければ幸いです。

9月の学園再開後は、3年生の進路決定、学園入試、IBDPのテスト等、重要な行事が続くこととなります。後期におきましても、教育活動の更なる充実発展のために、職員一同尽力する覚悟でございますので、変わらぬ御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆となりましたが、御家族皆様の御健勝と御多幸を祈念いたしまして、御挨拶に代えさせていただきます。

2. 緑舎祭（渉外課より）



Today's school fête was a great success, with many visitors from the local community joining us for a fun-filled day. This year's theme, "**Harajuku**," brought bright colours and creativity to every corner of the school. The vibrant decorations transformed the campus and created a lively atmosphere from the moment guests arrived.

Lead by the school's International Exchange Committee, over the past few weeks, students have worked hard to prepare a wide range of cultural activities and games for visitors of all ages.

There was plenty to see and do, ensuring that both children and adults could enjoy the day.

Despite the hot weather, our students remained enthusiastic throughout, making every effort to give visitors a warm welcome and ensure everyone had a memorable experience.

Some of the most popular attractions included the traditional rice cake making activity and energetic performances of the Soranbushi dance, which gave guests the opportunity to experience Japanese culture firsthand.

This year's fête was also the first to be organised in House groups. One of the main aims was to strengthen relationships between students from different year groups, and it was wonderful to see everyone working together so positively. The teamwork, cooperation and House spirit on display were among the highlights of the day.

Congratulations to **Sunvale**, who won this year's House competition. Their stalls stood out for their outstanding decorations, creativity and excellent teamwork.

Thank you to everyone who helped make this year's school fête such a memorable event. We

hope to welcome everyone back again next year! Thank you to all the students who worked so hard to put on the event.

[Comment from the Head of the KBK : 国際文化交流委員長より]

The school fete was very exciting! KBK (国際文化交流委員会) members had a lot to do. I think they worked very well together. What really stood out for me was how everyone cooperated and had fun. Our job was very hard work, especially because of the hot weather. But, it was great to share Japanese food and culture with the local community. Organising the event for the first time was a great learning experience for me, but I'm glad it helped the students deepen their relationships with each other. I hope everyone had a great time and I'm already looking forward to next year's fete!



【House 別企画】

«Silverbrook»

模擬店 (クレープ、フロート)、
ボーリング、書道体験



«Oakridge»

模擬店 (モダン焼き)、
スライム作り、茶道体験



«Sunvale»

模擬店 (かき氷、フランクフルト)、プレスレ
ット作り、着物体験、レトロフォトブース



3.授業参観 (教務部より)

7月9日(木)3・4限目に、保護者の方々をお招きし、学習発表会および授業参観を行いました。

3限の学習発表会では、食堂内にブースを設け、展示された授業の成果物を前に、生徒たちが訪れた保護者の方々に学習内容を発表するという形式で行いました。保護者の方々は生徒の発表に興味深く耳を傾けてくださり、多くのご質問やお褒めの言葉をいただきました。普段は少人数のクラス内でしか発表の機会がない生徒たちにとって、多くの大人の前でプレゼンテーションするというのは学ぶことも多く、良い経験になったことと思います。

4限の授業参観では、それぞれの学年や選択クラス、IBコースに分かれて、公開授業を行いました。当初は保護者の方々に前に緊張気味だった生徒たちも、徐々に本領を発揮し、活躍する姿を見せてくれたのではないかと思います。

お忙しい中、また猛暑の中、ご来校いただきました保護者の皆様、誠にありがとうございました。



4.Wimbledon 観戦 (体育科より)

現在スポーツの国際大会は事前のオンライン販売が主流ですが、最も長い歴史と格式を誇るウィンブルドンは今でも伝統として並んでチケットを買えることが有名で、イングランドの夏の風物詩となっています。その伝統を味わうために、我々の観戦ツアーは朝4時に始まりました。8時間の待ち時間を経て、女子ダブルスの加藤選手や望月選手が日本男子として3人目の快挙であるウィンブルドン16強入りを果たした瞬間を間近で観戦し、感動と興奮の一日になりました。





5. The best experience of this term 🐝 (英語科より)

Do you know how many bees are in one hive? I didn't. However, I found out when I visited the apiary, and this was one of my best experiences this term.

The best part was asking about how many bees are in one hive. Beekeepers told me that there were over 35,000 bees in one hive where we visited. Thousands of bees were flying around, but none of them tried to attack us. That was probably because they knew how to handle them safely. There was also a queen bee, and it was more massive than others. It was exciting to see how they control over ten thousands of bees.

If you come to this apiary, you can see workers, drones, and the queen bee. You can also learn how to catch bees and mark the bees. It was interesting, because we can't try those things in daily life.

Everyone should try this experience once in life. Visiting the hives sounds scary. However, it is safe if you follow the rules, so you should go to the apiary and learn about bees. It is both fun and educational, and you could learn how important bees are for the environment. You could also eat honey after you finish. It is very sweet, and delicious. For me at the beginning, it was scary to go to the apiary, but the bees never stung us and I think everyone should give it a go at least once in their life. (Ko2 student)





6. KO1 Visit to Mosque (英語科より)



It was our first time visiting a mosque, and it was a very meaningful experience. The people who welcomed us were very kind, so we felt comfortable throughout the visit. We also learned about Islamic calligraphy and the religion of Islam. Most importantly, seeing people pray in person was very impressive, making the visit both valuable and memorable. (Ko1 student)



7. 週末ホームステイ (渉外課より)



I had a wonderful weekend with my host family. They were very friendly, and when I couldn't understand their English, they kindly repeated it for me. Because of that, I felt comfortable talking with them. They also have a daughter around my age, and we enjoyed talking about Korea and other things.

During the weekend, they took me to Madame Tussauds in London, Windsor Castle, a delicious Italian restaurant, and a local gelato shop. We also watched a drama together, and they changed the subtitles to Japanese so that I could understand it better. I was really touched by their kindness.

The best part of the weekend was playing board games with the children before I went home. We laughed a lot, and I had so much fun. This homestay was a great experience, and I was able to improve my English and make many wonderful memories with my host family. I am very grateful to them for such a wonderful weekend. (KO2 student)



8. 研修旅行作文コンテスト（国語科より）

6月の研修旅行では、1年生はブライトンでの語学研修とホームステイを通して異文化への理解を深め、2・3年生はイングランド・スコットランド各地を巡り、歴史・文化・社会を多角的に学ぶ機会となりました。いずれの学年にとっても、仲間と協力しながら新しい環境に向き合う経験は、主体性や協働性を育む貴重な学びとなりました。

国語科では、この研修で得た気づきや感動を言語化し、経験を「理解」へと昇華させる学習として作文コンテストを実施しました。生徒は、自身の体験を振り返り、価値観の変化や学んだことを文章として構築することで、研修の教育的効果をより深く定着させました。最優秀作品に選ばれた生徒の作文を紹介します。

雨のち晴れ 1年生

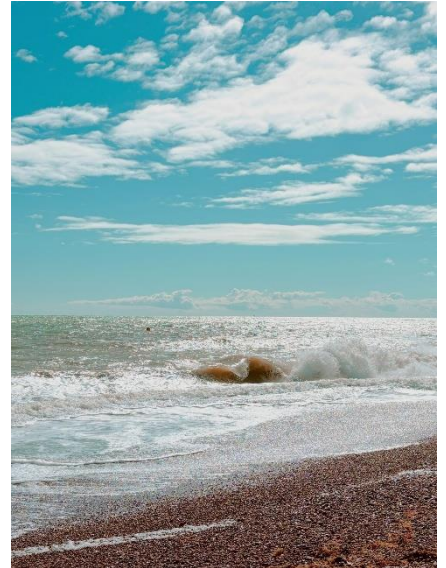
研修旅行で最も印象に残っているのは、英国のブライトンで過ごした二日目の自由時間だ。曇り空と時折降る雨の中で始まった午後だったが、その数時間は私に「予想通りにいなくても、その瞬間を楽しむことの大切さ」を教えてくれた。

語学学校での授業を終え、午後3時30分にウォーキングツアーが解散となった。私は友人の三人とノース・レーンへと歩き出した。私の事前の計画では「晴天の下、お洒落な街を完璧に巡る」はずだった。しかし、実際の空はどんよりと重く、冷たい雨粒が落ちてくる。少しの落胆を抱えながら、私たちは異国の路地へ足を踏み入れた。

だが、その憂鬱はすぐに吹き飛んだ。古いレコード屋の扉を開けると、日本では見かけない色彩豊かなジャケットが並び、独特の古い紙の匂いが満ちていた。知らないアーティストばかりだったが、「古い洋楽に詳しいお母さんなら知っているのかな」と想像するだけで胸が躍った。カラフルな量り売りのお菓子屋では、甘い空気が漂う中、友達が楽しそうに緑色の袋を広げる姿を見て、お菓子が苦手な私も思わず笑顔になった。雨を避けるように巡った店々には、計画以上の新鮮な発見が溢れていた。

午後4時頃、まるで奇跡のように雲が割れ、鮮やかな青空が広がった。私たちが歓声を上げて海へ向かうと、そこにはクラスの女子全員が集まっていた。示し合わせたわけでもないのに、自然と一つの大きな輪ができる。「奇跡的に晴れたね!」と笑い合いながら、小石の浜で一時間半ほど過ごした。私は写真を撮るのが趣味なので、潮風に吹かれながら夢中で遊んでいる友達の姿を、スマホの画面越しに次々と収めていった。どんよりとした空の下では想像もしていなかった、眩しい光と弾けるような笑い声。友達とはしゃいだあの景色と、レンズの向こうに見たみんなの笑顔は、今でも鮮明に思い出せる。

「計画通りに動くこと」が求められる研修旅行だからこそ、私はこの自由時間を通して、物事は予定通りに進まなくても、その場にある出会いを受け入れることで最高の結果に変わるのだと学んだ。これから先、思い通りにならない壁に直面しても、その状況を楽しみに変える前向きな姿勢を大切にしたい。ブライトンの雨のち晴れの午後は、私に生きるヒントをくれた、忘れられない宝物だ。



景色を彩る仲間の笑顔 2年生

バスの窓から見えるロンドンとはまた少し表情の違う景色に、出発直後から胸の高まりが止まらなかった。マンチェスターからエディンバラまで、イギリスを縦断した5日間の研修旅行。各地の歴史や文化に触れた充実感とともに、私の心に最も強く残っているのは、旅の全工程を共にした「仲間への感謝」である。

今回の旅行では、普段の学校生活では味わえない非日常の体験が連続した。Yorkの荘厳な大聖堂や、昔ながらの風景が広がるBeamish villageでは、歴史の息吹を肌で感じた。またエディンバラの博物館で目の錯覚を利用した展示に驚き、伝統的なスコットランドのショーでは、最後にみんなで手をつないで笑顔で歌った。初めて触れる文化やエンターテインメントは、どれも新鮮で刺激的だった。

しかし、何より私の心を躍らせたのは、いつもとは違う友達との関わりだ。フリータイムでは、普段はコースが違って必然的に話す機会が少ない友達とも一緒に街をめぐることができた。Teikyo Uni で大学生と交流し、新しいつながりが増えたことも貴重な財産だ。移動の長い電車内でみんなと熱中したトランプ、最終日のチョコレートづくりでお互いのトッピングを見せあった時間。些細な一瞬一瞬が、友達の笑顔があるだけで特別な思い出へと変わっていった。5日間の旅の中では、意見がぶつかって揉めたり、涙を流したりする瞬間もあった。それでも、今こうして振り返った時に「楽しかった」と心から思えるのは、1年間を共に過ごし、お互いを深く理解しあえている仲間がいたからだ。



このメンバーでいられる時間は限られていて、残された研修旅行の機会もあと数回だと思うと、寂しさがこみあげてくる。だからこそ、今回の旅で再確認した「仲間と過ごす時間の尊さ」を胸に、一瞬一瞬を大切にしたい。この絆をこれからの学校生活の糧とし、お互いに支え合いながら、次の新しい挑戦に共に歩んでいきたい。

生きたい 3年生

穏やかな青空とさわさわと揺れる草の匂い。1820年代のイギリスを思わせる見渡す限りの緑の中にレンガ造りの小屋がぽつりぽつりと建ち、遠くではヤギが野原でおっとりとした時間を過ごしている。ああ、田舎を旅した人がよく口にする「なにもなかった」とはきっとこの情景を指すのだろう。以前の私は、それを退屈だったという意味だと捉えていた。けれど今なら分かる。この言葉は褒め言葉なのだと。この「なにもなさ」が、私の心を不思議と落ち着かせてくれた。もし私が絵描きなら、迷わずこの景色をキャンバスに落とし込むだろう。このホッとする世界を、いつまでも眺めていたい。まるでタイムスリップしたかのような感覚に私は陥った。けれど、今手に持っているスマートフォンは間違いなく現代のものだ。私は心の中で苦笑しながら、集合時間を確認するため画面に目を落とす。「うわ。」圏外だ。画面の端を見て、私は初めて、ここが電波の届かない場所なのだと気がついた。どうやらこの世界では、溜まっている連絡も返さなくていいし、自分に必要の無い情報も見なくてもいいらしい。私にとってはここの日常がとても魅力的だと感じた。



「この世界と、今の社会どっちで生活したい？」私は思わず、隣で歩いていた友人に尋ねると、「今の情報社会かな、スマホ触りたいし！」と友人はおどけて答えた。一緒に行動していたグループの仲間たちも、みな「今の社会のほうが良い」と口をそろえた。確かに今の社会は便利だ。そして私は、その答えを少し羨ましく思った。なぜなら、私がこの世界に強く惹かれるのは、今の自分にどこか満足できていないかもしれないからだ。

「この世界と、今の社会どっちで生活したい？」私は思わず、隣で歩いていた友人に尋ねると、「今の情報社会かな、スマホ触りたいし！」と友人はおどけて答えた。一緒に行動していたグループの仲間たちも、みな「今の社会のほうが良い」と口をそろえた。確かに今の社会は便利だ。そして私は、その答えを少し羨ましく思った。なぜなら、私がこの世界に強く惹かれるのは、今の自分にどこか満足できていないかもしれないからだ。

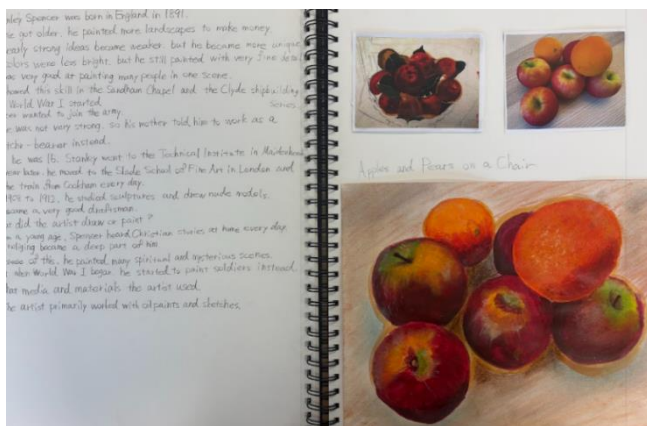
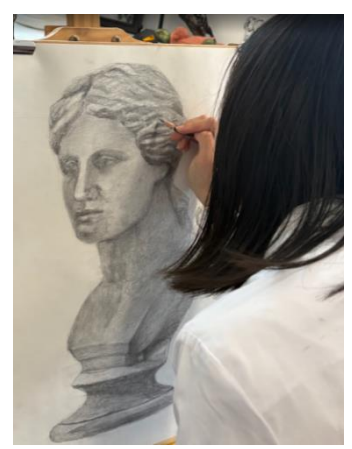
この社会に生きる中で、私は知らず知らずのうちに、全てをないがしろにしていたのだと思う。気の利いた返信はAIに頼ればいいし、友人との別れも、後で連絡できると思ってその瞬間を大切にしていなかった。スマートフォンを手に入れる前はどうかだった。便利さに囲まれ、情報は絶えず流れ込んでくる。気づけば何をするにも億劫になり、夢中になれるものも見つからない。勉強にも身が入らず、ただ画面を眺めるだけの日々を過ごしていた。もし私が1820年代の住人だったとしても、きっと別の場所や別の時代に憧れていたはずだ。結局のところ、私はないものねだりをしているだけなのかもしれない。

だからこそ、今あるものの価値に目を向けたい。友人との何気ない会話。バスドライバーとの挨拶。先生との授業の時間。同じ場所で、同じ時間を共有できることは決して当たり前ではない。自分が置かれている環境と、自分自身に誇りを持てるように。今この瞬間を大切に、後悔のないよう日々を積み重ねていこう、そう静かに決意した。

9.アートコースより

工芸制作を終えた生徒たちから「鉛筆デッサンに挑戦したい」という要望があり、現在は鉛筆デッサンに取り組んでいます。練り消しやガーゼの使い方など、まずは基本的な用具の扱い方を学びながら、石膏像では立体感や陰影の表現、透明ボトルでは光の当たり方や透明感の表現、果物では傷や質感の描写など、それぞれの特徴を捉えられるよう時間をかけて制作しています。

ISCA による授業では、「Artist Response」と呼ばれる、さまざまなアーティストの表現方法を観察し、その技法を自分の作品に取り入れる課題に取り組んでいます。また、絵の具で着彩した布に刺繍を施したりするなど、様々な技法を学んでいます。



10. 寮便り

スイカ割り、かき氷パーティー、ロンドン水族館見学、乗馬クラブ、FIFA ワールドカップ観戦、ホラームービーナイト、そして・・・
締めくくりの BBQ！猛暑に負けずに寮生活を楽しむ様子をお届けします。





帝京ロンドン学園の Instagram はコチラ！▶▶▶

